

○鎌倉市スマートシティ構想（素案） 意見に対する市の考え方

意見の総数 33件

意見の種類 66件（33件の意見を構想の目次の項目に沿って分類）

- 1 構想の概要に関する意見 13件
- 2 鎌倉市を取り巻く環境の変化に関する意見 5件
- 3 基本理念・基本原則に関する意見 9件
- 4 推進体制に関する意見 16件
- 5 リーディングプロジェクトに関する意見 14件
- 6 既に動き出しているスマートシティの取組に関する意見 5件
- 7 住みやすさと幸福度の数値化・指標化に関する意見 4件

意見の反映 35件（※一つの意見で複数の反映項目があるため、意見の数とは一致しません。）

- A 見直し・反映 4件
- B 参考意見 31件

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
1	防災鎌倉や安全情報メールなどを見ていると、不審者や詐欺、時には殺人事件などが近年増えているように感じており、市の魅力が高まるほど一方で犯罪の要素や機会も高まってしまうのではと懸念を感じます。市民の安全・防犯の観点も盛り込んでいただきたいと思います。	いただいたご意見については、リーディングプロジェクトの検討、実現する際に参考といたします。今後、リーディングプロジェクトでは、「市民目線の暮らしやすさ」などをテーマに実証事業等を鎌倉市スマートシティで展開してまいります。	5	B
2	<p>スマートシティについての方針についてはある程度理解できましたが、具体的に私たち市民や市内の事業者がどうなるのか、また、そうなるために私たちは何をすればよいのか、私個人の最初の一步が資料ではイメージできません。</p> <p>その理由について私なりに考えてみたのですが、例えば、「共生」というのは私は大賛成なのですが、私の持っているイメージと他の方が持っているイメージが異なっているかもしれませんし、その言葉そのものも抽象的すぎて、誰と誰がどのようになればお互いにどういった利益をともに享受できるのか・・・といったものが具体的にイメージできないのです。</p> <p>私のイメージする共生は「八紘一宇」の概念です。</p> <p>構想や実装のもっと手前のところで、市民共有の「理念」が徹底されていないので、「八紘一宇」＝「軍国主義」＝「外国人差別」といった間違ったイメージを多くの日本人・市民が持ってしまうような気がします。</p> <p>本来の「八紘一宇」は「日本人だけではなく周辺国の人たちとともに?楽しましよう」という理念です。</p> <p>特に、理念の根幹となる「共生」と「歴史の継承」は、「日本人の伝統的精神や文化の大切さ」や市や日本人個人のプラットフォームとなる「日本国」への愛国心を養う必要があるのではないかと思います。自分を大事にできない人は他人も大事にできません。</p> <p>こういった日本人の精神と文化を踏まえて鎌倉市民の理念（精神）を固めた上で、具体的な問題を解決するための課題が抽出され、それら課題に対する対策案（構想案から計画案）を図るべきと考えます。</p> <p>スマートシティを実現するためには、箱物やサービスを用意するまえに、この根本的な「理念」について徹底的に議論し、教育・学習する必要があるかと思います。そういった場も今後用意していただければと思います。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、スマートシティを推進する上では、市民の皆様をはじめとした様々なステークホルダーと取組の目的や理念を共有することが重要だと考えております。</p> <p>そこで、本構想の素案では、「3 基本理念・基本原則」において、「市民起点」、「共生の精神」、「鎌倉らしさの継承」の3つの基本理念を定めました。</p> <p>これらの基本理念の内容については、既存の条例や計画等の策定時に市民の皆様と議論を重ねてきたものと考えておりますが、鎌倉市スマートシティの取組においても、引き続き丁寧な対話を重ねまいります。</p>	3・5	B
3	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の健康データ(心拍数、歩数、就寝/起床時間等)をスマートウォッチ/ホーンで採取し、1人暮らしや自宅療養の見守りに繋げる。 ・血圧や様々な測定器をスーパーや駅等に置き、通院履歴、お薬手帳、病歴等をマイナンバーと連動し災害時のアプローチに繋げる。 ・「共食」をメインにコミュニティ形成の選択肢を広げ、ポピュレーションアプローチを活性化させ、フレイルチェックや上記の個人情報の取扱い等の説明を広げる。 ・共有/共存資産（農場や酪農等）を形成し取組みをデータ化し幸福度を見える化する。 	<p>いただいたご意見については、リーディングプロジェクトの検討、実現する際に参考といたします。</p> <p>なお、個人情報を取扱う取組については、プライバシー保護と透明性の確保、リスクや倫理的課題の明確化を行いながら、十分な市民理解の醸成に努めます。</p>	5	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	住みたい町作りとスマートシティを連動させる。			
4	資料のなかの市民の困りごとを解決するのに、スマートシティ、デジタル化をすることで解決されるという過程がわかりません。具体的にどのようにしたら解決されるのでしょうか。 また、困りごとの多くは市が必要な公共事業に予算をあてれば現状で解決するものがほとんどだと思います。 そもそも市民がこの取り組みを知らず、また市が積極的に広報しないことが問題であり、各戸に資料など必要な情報を紙で配布するべきと考えます。	鎌倉市スマートシティでは、「課題を見える化し、みんなで解決する」実証事業等を通じて、新たな共創の場（コミュニティ）を形成し、地域の個性やニーズを生かした多様なサービスを創出する基盤整備を進めます。 複雑・多様化する市民ニーズや地域課題への対応、持続可能な共生社会の実現には、従来の施策やサービスに捉われることなく、技術革新や社会情勢の変化を踏まえた最適な手法を検討していくことが重要です。また複雑で課題の本質を見極めることが困難なもの、また対応策の効果の測定にデータを活用することなどにより、市民の困りごとを解決していきます。これらにより、行政だけでは対応できない複雑・多様化する市民ニーズや地域課題への対応、持続可能な共生社会の実現を加速します。 最後に、ご指摘いただきました広報につきましては、対象者に合わせた適切な広報手段を採用するとともに、豊かな市民生活やまちの魅力向上につながる優れた取組などを積極的にわかりやすく発信するとともに、自ら課題解決に取り組む人材の育成などにも取り組めます。	1・4	B
5	鎌倉市スマートシティ構想(素案)は、現時点での状況等を踏まえて、大変良く纏められていると思います。以下に意見を記述します。 (1) 将来にわたる事業構想であることを考えると、現在の構想自体が、現在の状況や現在の ITC 技術などから見通せる課題・問題などを起点とせざるを得ないことを認識する必要があると思います。また、世代が交代しながら未来につながっているわけで、市民の構成や意識など、一時点に留まっているわけではありません。従って、定期的な PDCA の実施は必須のことと認識して頂きたいと思います。 (2) 市民が享受できる利点・利便性等を、極めて具体的に、出来れば定量的に示して頂きたい。それぞれの場面が目に見えるように示すことで、様々な世代の方に理解され、積極的な関与等の効果も期待出来るでしょう。また、市民団体等との協働も事業展開には必要になるのではと思量します。 (3) この構想を実施に移す段階で、企業への委託等が発生すると思いますが、企業経営の目先の利益重視から、短期的な視点に縛られて、公共性、永続性、変化する社会状況や市民ニーズに対する柔軟性等、懸念されます。また、行政の外郭団体を設立して、事業母体とすることも考えられるでしょうが、利権集団化することに懸念が払拭できません。このことから、実行機能と、それをモニター・監視する監査機能など、この事業がサステナブルに展開できるような、ガバナンスの仕組みを構想・導入すべきだと思います。 以上	鎌倉市スマートシティでは、その事業効果を、「7 住みやすさと幸福度の数値化・指標化」によって可視化するとともに、その評価を行い、PDCA サイクルを実施したいと考えています。 また、(3) のガバナンスの仕組みに関するご意見については、スマートシティの具体的な取組は新たな市民参画の仕組みを構築し、市民の皆様とともに進めてまいります。	4・7	B
6	推進体制からリーディングプロジェクト選定に至る決定プロセスが記載されていないので明確にすべきではないかと思えます。 また、リーディングプロジェクトが年度毎に推進されると思われませんが、PDR(Prep: 準備/Do :実行/Review :評価) のサイクルにて確認が必要かと思えます。特に Review : 評価は、持続的な実行のためにも業務実行者以外による客観的評価（市民も含む）が重要ではないでしょうか。	推進体制からリーディングプロジェクト選定に至る決定プロセスについては、本構想に基づき今後具体化し、公表してまいります。 また、鎌倉市スマートシティでは、その事業効果を、「7 住みやすさと幸福度の数値化・指標化」によって可視化するとともに、その評価を行い、PDCA サイクルを回してまいります。	4・5・7	B
7	スマートシティ構想の素案を拝見して、防災から交通やヘルスケアなど多岐にわたってデータで結び、それを市民目線で活かせるデジタル都市を目指す構想は大賛成です。 まだ一つ一つどのような形で構想が実現していくのか見えにくいのですが、防災にしても交通やヘルスケアにしてもすべての分野を一つのアプリケーションで統一してほしいなと思います。 例えば鎌倉市のスマートシティアプリがあり、スマホなどのデバイスでそれを立ち上げると自動的に今いる位置が示されて、	いただいたご意見については、令和4年度以降の取組の検討を行う際、参考といたします。	5	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>近くの避難場所が示されたり、各病院の混雑状況やその場でそのまま診察の予約できたり、またその場でタクシーを呼べたり(ウーバー的なことができちゃう。)など一つのアプリですべてのことができたなら便利だと思いました。</p> <p>買い物でも大きな店舗だけでなく個人経営のようなお店でもドローンで注文が届いたりなど個人経営の店もまんべんなく取り込むことができたなら鎌倉経済にとっても市民にとっても良いことですね。</p> <p>そのためにもすべて統一された一つの高機能アプリが必須だと思います。</p> <p>年寄りが多い鎌倉なので誰でも使えるわかりやすい直感型のアプリが良いと思います。</p> <p>税金から始まり、暮らしの大部分がすべてデジタル化されて思いついた時にすぐに何か実行できる生活ができる都市になったら魅力的です。</p> <p>雨でも寒くても、病気になって家から出れなくてもみんな同じことが出来るのは素晴らしいです。</p> <p>そんな鎌倉になるのが楽しみです。</p>			
8	<p>市役所窓口のオンライン化は重要な項目と思います。</p> <p>全市民が活用出来るためにはデジタル・デバイド(情報格差)が起きないようにすることが前提と思います。</p> <p>活用に興味があるがパソコンやスマホでの操作に不安がある・分からないといった方やそもそも機器を持っていない方もいらっしゃると思います。</p> <p>個人的には、機器の使い方のサポートを有償または無償のボランティアとして行いたいと思っています。そのようなボランティアが活躍できるような仕組みを作っていただければと思います。</p>	<p>デジタルデバイドの解消については、「3 基本理念・基本原則」においても、「誰一人取り残さない共生社会を実現するために、デジタルデバイドの解消に取組み、希望するすべての市民が等しく人にやさしいデータやテクノロジーに支えられたサービスを享受できるように努める」と記載しているとおり、その解消に向けて注力していきます。</p> <p>具体的には、「4 推進体制」の「共創を生み出す基盤」に記載したとおり、「データ利活用に対する理解促進」や「シニア向けデジタル講座」の開催、「FabCitizen の育成」などに取り組めます。こうした取組の中でボランティアが活躍できるような仕組みも検討してまいります。</p>	3	B
9	<p>本計画には「グリーンフィールド」および「ブラウンフィールド」という用語が用いられていますが、都市開発あるいは都市計画の分野においては、「グリーンフィールド」とは都市郊外の緑地・農地等を意味し、したがって「グリーンフィールド開発」とは郊外に市街地を新開発することを意味します。また、「ブラウンフィールド」とは工場跡地を意味し、したがって「ブラウンフィールド開発」とは工場跡地を再開発することを意味します。</p> <p>本計画では、深沢の開発について「グリーンフィールド」と位置づけておりますが、これは工場跡地の再開発ですから、まさに「ブラウンフィールド開発」にあたる事業であり、これを「グリーンフィールド」と呼ぶのは、都市開発分野の専門家からするときわめて違和感があります。これは重大な市民の誤解を招くものでもあり、また、計画を立案したプランナーの専門能力についての疑義を生じせしめることから、計画全体の内容の学術的・科学的信頼性を著しく損なうものといわざるをえません。おそらく深沢地域を緑豊かな拠点にしたいという事から、響きのよい「グリーンフィールド」という言葉を聞きかじって名付けたのかもしれませんが、都市づくりの分野において、この語を、そのように用いることは、著しく不適切です。</p> <p>また、いわゆる旧鎌倉地域を「ブラウンフィールド」と位置づけておりますが、「ブラウンフィールド」とは工場跡地を意味する用語であるので、これもまったく不適切な誤用といわざるをえません。こちらは、あるいは「ブラウンフィールド」とは「歴史的市街地」のことを意味する言葉と誤解した結果かとも思われますが、「ブラウンフィールド」とは工場跡地を意味する用語であることは世界的に定着しておりますので、旧鎌倉地域を「ブラウンフィールド」と呼ぶことは、まことに滑稽なことといわざるをえず、本計画の品質を決定的に貶める結果を招いています。</p> <p>計画の中身以前に、こうした専門用語の誤用がチェックされないままパブコメに出てくるということは、本計画を策定したコンサルタント（および策定委員会）の計画策定能力を疑わざるをえません。少なくとも、この用語については、適切なものに変更する必要があると思われます</p>	<p>本構想の素案における、グリーンフィールドとブラウンフィールドの整理については、内閣府が作成しました「スマートシティガイドブック 別冊（3）用語集」に沿って記載しておりましたが、都市計画の分野における用法と異なり、誤解を生じる恐れがあるため、構想から「グリーンフィールド」「ブラウンフィールド」の文言を削除いたします。</p> <p>《参考》 グリーンフィールド</p> <ul style="list-style-type: none"> 埋立地や工場跡地などの更地を新規に開発し、そこに新たに住民を集める新規開発型の手法。 対して、既存の街区における再開発を「ブラウンフィールド」と呼ぶ。 <p>※スマートシティガイドブック 別冊（3）用語集から抜粋</p>	1	A
10	<p>素晴らしい構想をありがとうございます。</p> <p>私が地域活動を6年間する中で、見出した課題を記載させていただきます。</p> <p>1. 買い物弱者</p>	<p>いただいたご意見については、令和4年度以降の取組を進めるうえで地域のご意見として参考といたします。</p> <p>なお、個人情報を取り扱う取組については、個人情報保護の関連法令を遵守し、透明</p>	3・5	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>買い物に困難を抱える買い物弱者の課題は、特に北鎌倉地域で顕著となっていると聞きます。</p> <p>既にお隣の横浜市では、地域包括、社協、民生委員、スーパー（イオン）、住民ボランティアの協働による移動販売車（週1で販売）誘致により、課題解決の一步を踏み出しています。</p> <p>2. モビリティ 「バスの本数が減って不便だ」という声をいただいたことがあり、モビリティの課題は今後、加速すると考えます。平塚市では地域でコミュニティバスを走らせ、交通の課題、雇用創出につながるような実証実験をしているようです。</p> <p>3. 災害時要援護者避難支援対策 平成18年に内閣府がガイドラインを制定しましたが、地域では、まだ浸透しておりません。個人情報保護の観点から進まない地域が多いのですが、民生委員が情報を管理することにより対策をすることが可能です。まず、民生委員が担当地域にアンケートを取り、要援護者と支援者を集め、マッチングさせます。1年に1度、顔合わせをし、支援者には援護に必要な研修等を受けていただき、災害に備えます。個人情報は民生委員が厳重に管理します。</p> <p>4. 雇用創出 女性、障がい者、高齢者の地域でのお仕事マッチングシステムを構築し、地元で生き生きと働きながら暮らすことを実現させます。すでに東京都世田谷区では、高齢者のお仕事マッチングシステム GBer の実証実験を進めています。</p> <p>その他、市民それぞれが、課題だと思っていることを持ち寄り、データやITを駆使し、まちの課題をみんなで解決するスマートシティの構築に期待しております。</p> <p>児童虐待（親のケアが必要）やひとり親貧困問題（住居や雇用のサポート）等、課題は山積しつつあると感じています。どうぞ、宜しくお願いします。</p>	<p>性の高いルールと手続きに従い、リスクや倫理的課題の明確化を行いながら、十分な市民理解の醸成に努めます。</p>		
11	<p>超少子高齢化に関して「右肩上がりの高度経済成長期を前提にした現在の社会システムでは、この先の時代を乗り切ることができない」と定義されていることに賛同いたします。</p> <p>一方で、「鎌倉、大船に続く第3の都市拠点形成」が定義されていることに違和感があります。労働人口が減る中、都市拠点を新たに増やすのはなぜなのでしょう。都市機能に関しては大船地域をより良くしていくべきではないのでしょうか。現市役所は耐震強度に問題があり、高さ制限のため建て直しは現在よりも容量が減ってしまう、など鎌倉地域外に移転をするのだという考えがあるのだと思います。わからないではありませんが、アフターコロナ時代を見据え賢くスリムにしていけないのでしょうか、物理的な容量も減らせるのではないのでしょうか。サンクコストは考慮せずに計画の見直しをいただけると良いと思います。</p> <p>柏尾川は暴れ川で、大船の街が水没したのは平成に入ってからすぐ頃だったのでしょうか、過去の水害のイメージを強く持っています。今は整備が進んだのか、あの事態には陥っていませんが、超少子高齢化で今後は徐々にかけられる費用が減ってくることも視野に入れる必要があると思います（柏尾川もその先の境川も、川のどこかで重機が常に稼働しているイメージがあります）。</p> <p>学校に関しての施策は地方ではできない部分もたくさんあると思いますが、今回の感染症対策で前に進もうとしたことを考慮に入れて先を見据えて進めていただきたいと思います。常に生徒が集って、前に教師が立つ、という状況でなくなっていくことを想定すると、電子黒板というものはアイコンとして中心に現れるべきものではないと思います。</p> <p>数十年先は必ずやってきます。ここまでの投資に惑わされることなく、長い目でスマートシティを検討いただければと思います。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、複雑・多様化する市民ニーズや地域課題への対応、持続可能な共生社会の実現には、従来の施策やサービスに捉われないこと、技術革新や社会情勢の変化を踏まえた最適な手法を検討していくことが重要です。</p> <p>特に、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大による人々の価値観や行動様式の変化、デジタルトランスフォーメーションの加速化など、社会情勢の変化に対応し、鎌倉市スマートシティの取組をしっかりと進めてまいります。</p> <p>なお、本市が進める深沢地区の新しいまちづくりは、鎌倉駅周辺、大船駅周辺に並ぶ第3の都市拠点を整備する事業と位置付けています。深沢地区では、先進的な産業施設の育成、産業複合地の整備等を行い、職住近接の「働くまち鎌倉」の実現を目指し、各拠点がそれぞれの特性を生かすことにより、超少子高齢化時代を乗り切る、持続可能な都市経営を実現してまいります。</p> <p>また、この新しいまちには、行政施設街区に市役所・消防本部・スポーツグラウンド・総合体育館・公園を整備し、災害時における迅速かつ効果的な対応により、市民の生命と財産を守る防災拠点を整備し、鎌倉市全体の防災力の向上を目指してまいります。</p>	1・2・6	B
12	<p>1.全体的にまだ抽象的で目指す具体的なイメージが見えない。もう少し生活、社会が、どうなるのかイメージを示してもらいたい。</p> <p>2.交通については、オーバーツーリズム等はすぐ取り上げられるが、昔ながらのいわゆる鎌倉地区以外（急坂の地区が多い）の人にとっては生活の利便性からすると車に頼らない日常の足、移動手段も重要である。それは、住民間のコミュニケーションの活性化という点でも重要に思う。</p>	<p>鎌倉市スマートシティの取組の具体的なイメージについては、令和4年度以降に「市民目線の暮らしやすさ」などをテーマとしたリーディングプロジェクトの実証事業等に取り組み、優れた取組を積極的に発信して、市民の皆様にお知らせしてまいります。</p> <p>また、そのほかのご意見についても、リーディングプロジェクトの形成、実現を進める中で、参考といたします。</p>	5	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	3.鎌倉市は狭く、いくつもの自治体が身近な存在なので、そうした近隣を含む地域との連携も示せないだろうか。 4.鎌倉は文化都市であるような捉え方をするひとが多いが多くの人は昔のノスタルジーに浸かっているだけで、文化、歴史を尊重しているのかという疑問。幕府や寺社の話や有名人の別荘があったというような話だけでなく、今、これからの人々の活動という面から文化都市のありかたを整理できないだろうか。			
13	<p>■指標について</p> <p>住みやすさと幸福度の数値化・指標化は、数が多いと複雑になると思いますので、シンプルにしてほしいです。社会の指標については、1.近所と交流がある人の割合、2.近所と相談しあえている人の割合、3.病気のと看やチャレンジする際に助けあえる人の割合などはどうでしょうか。国際比較をしても、この数は低いはずで。一人当たりが所属する地縁団体数や自主防災組織のカバー率なども参考になると思います。</p> <p>■次世代教育について</p> <p>・チャレンジする人や若い人たちの流入、地場産業の後継者問題など、次世代を担う人の率を増やしたいです。そういった目標や施策はお考えでしょうか。"</p>	<p>「7 住みやすさと幸福度の数値化・指標化」については、一般社団法人スマートシティインスティテュートが主体となって全国共通の指標として開発を進めています。これを用いて本市の強みや弱みを明らかにし、効果的な施策を展開することで、鎌倉市スマートシティの推進力にしていまいます。併せて、情報発信については、できるだけシンプルにわかりやすいものとなる様、配慮してまいります。</p> <p>また、鎌倉市の将来を担う若者の参加率を高めるため、県が取り組むベンチャー支援との連携や人材育成などの取組を「4 推進体制」に位置付けています。</p>	4・7	B
14	<p>先進的システムの実証実験をしたところで、市役所内で FAX や紙の書類が使われているようでは、スマートシティと呼ぶことはできない。少なくとも、市が提供するすべての行政サービスを市民がネットを通じて利用することができるようにすべきである。</p> <p>その観点から、鎌倉市スマートシティ構想にある以下の2点を分かりやすく開示してほしい。</p> <p>1. 実現時期の明記</p> <p>「2. 鎌倉市を取り巻く環境の変化：社会変化」にある「自治体 DX 計画」を、鎌倉市はいつまでにこれらの項目を実現して市民にサービスを開始するのか、市民に明示すべきである。</p> <p>また、具体的なスケジュールができていないのならば、実行計画を作成する時期とその計画を実現する時期を明示してほしい。その際には、例えば「鎌倉市スマートシティ 2030 実行計画」と実行計画のタイトルに実現時期を明示し、市民に広く告知すべきである。</p> <p>2. 推進体制の明記</p> <p>「4. 推進体制」に、国、県、他の市町村との連携が省かれている。この図の中に、国、県、他の市町村との関係を加えるべきである。</p> <p>情報システムは、鎌倉市単独で構築するものではなく、国全体のデジタル化計画の一部として構築すべきである。</p> <p>理想的には、鎌倉市では必要なシステムの要求仕様を国に対して出し、国が各地方自治体の要求を整理してシステムを開発し、出来上がったシステムの実証実験に鎌倉市が参加する。</p> <p>情報システムは、利用者が増えた場合には継続的な改良が必要となるため、財政的及び人的負担が大きく、鎌倉市単独で開発するのはさけるべきである。</p>	<p>「自治体デジタル・トランスフォーメーション推進計画」は、総務省により 2020 年 12 月に策定されたもので、同じく 2020 年 12 月に閣議決定された「デジタル・ガバメント実行計画」の遂行に向けて、自治体に取り組むべき内容を整理したものです。その中の「重点取組事項」は、例えば「自治体の情報システムの標準化・共通化」については、国が提供するガバメントクラウドへの移行に合わせて令和 7 年度に実施する等、各取組事項ごとに具体的な取組内容や実施時期等が示されているため、本市としてもそれに沿って作業を進めています。また、「自治体 DX とあわせて取り組む事項」や「その他の取組事項」については、「4 推進体制」における共創を生み出す基盤の構築を進める中で、デジタルバイド対策やオープンデータの拡充などに取り組んでまいります。</p> <p>次に、「4 推進体制」に国、県、他の市町村との関係を記載すべきとのご意見につきましても、具体的な取組を進めるにあたり参考といたします。この記載の有無にかかわらず、特に、オープンイノベーションの環境整備に係る「官民共創による推進体制の強化」やサービスの高度化に係る「データ連携基盤の整備・オープンデータの拡充」の取組においては、国や県からの財政面、技術面における協力が欠かせません。また、隣接自治体との連携が不可欠な分野については、県を中心とした枠組みに参加し、取組を進めてまいります。なお、防災・減災の分野では、既にデータを利活用した事例づくりの取組を始めているところです。</p>	1・2・4	B
15	<p>「誰一人取り残さない」の部分の具体性が薄いと感ずます。どのようにしたら、スムーズに、誰一人取り残さず、スマートシティ化できるのか、もっと市民を交えて研究しなければいけないように感じています。むしろ、「誰一人取り残さない」が実現できれば、スマートシティのさまざまなアイデアが容易に実現できるのではないかと思います。「誰一人取り残さない」をテーマに、別途、市民対話で考え方やアイデアや行動（特にスマート化していない人たちも交えて）をまとめたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>現在、行政関連の“何か”を得るためには、それぞれ別々のユーザー登録が必要であったり、別々のアプリが必要であったり、これから始める人には、ハードルが高くなっています。ひとつのアプリ（アカウント）で、行政の情報が得られたり、サービスの手続きができるようになるのが、真のスマート化ではないかと思います。そろそろ、行政サービスの単一アプリ化を進めて欲しいと思いますし、私自身もそのためのアイデアは蓄積してきておりますので、市民対話等（産官民がベスト？）で実現化できる場が欲しい段階です。</p>	<p>いただいたご意見については、「4 推進体制」に記載しました「共創を生み出す基盤構築」に係る各種事業の具体化において参考といたします。特に参画のハードルを下げるための取組については、今後市民対話等を通じて検討してまいります。</p>	3・4	B

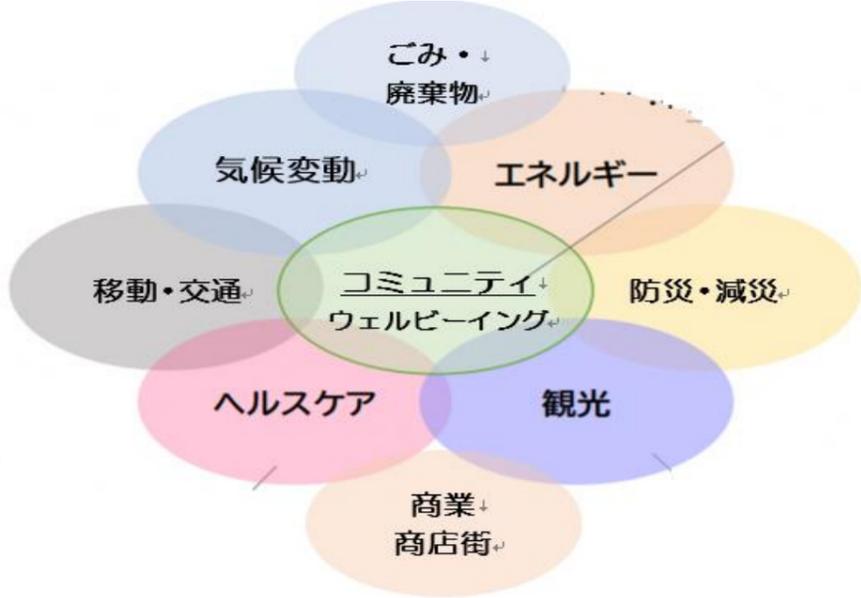
No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
16	<p>鎌倉市スマートシティ構想（素案）を拝見しました。3枚目右側の将来像に「誰もが生涯にわたって自分らしく安心して暮らすことができる共生社会」とあり、また、「鎌倉市が直面する課題」として「交通渋滞・オーバーツーリズム」とあります。</p> <p>私が住んでいるエリアは、鎌倉街道を幹線道路とし、そこから脇に入った高台の上であり、道幅や規模を考えると今後のコミュニティバスの運行も厳しいと思っています。カートを使った自動運転なども、日本全国で実証実験をしている様子をニュースで見かけますが、自宅と移動先の間には必ず主要道路を経由する必要があり、渋滞に巻き込まれたり、速度差による事故の危険性があると思います。</p> <p>また我が家の勾配では、カートでは怖いような気がします。</p> <p>根本的に、こういった渋滞道路を回避する（例えば混雑道路の部分だけ上空を飛び越える）ような新たな交通システムが必要ではないでしょうか。</p> <p>そのシステムがあれば、</p> <p>例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院に行きたいのに、高架や河川があり渋滞が激しい。 ・観光客の渋滞で、買物に出るのもままならない。（常々市民だけの道路が欲しいと感じています） <p>などが解消されます。</p> <p>ぜひご検討または、公募などにてご検証くだされば、今後の安心に繋がります。</p> <p>宜しく願い申し上げます。</p>	<p>いただいたご意見については、リーディングプロジェクトの検討、実現において地域の声として参考といたします。今後、リーディングプロジェクトでは、「市民目線の暮らしやすさ」などをテーマに実証事業等を鎌倉市スマートシティで展開してまいります。</p>	1・5	B
17	<p>「スマートシティ」で鎌倉市はようになって行こうとしているのか、その情報を求めて手をあげてしまったが、呆れるほど情報は用意されていなかった。深い失望。</p> <p>ここまで情報がないのに、市民に呼びかけて2度の「説明会」…あれは何だったのでしょうか？</p> <p>税金をいくら使ったのでしょうか？アウトソーシング流行りすぎの行政になってきていると感じています。</p> <p>まずはコツコツ職員が学び、不恰好でもいいから、それを市民に伝えて欲しいのです。</p> <p>見掛け倒しの取り繕いは不要です。実質を重んじ、外部業者にお金を落とし過ぎの傾向を何とかやめてもらいたいです。</p> <p>あと「人流把握」だけのカメラとの説明をきいたことがありますが、設置するのは顔を写すカメラの設置が考えられている、と思いますが違いますか？うちのごく近所にもあり、プライバシー侵害につながるものでこれ以上のカメラはいらないと思っています。</p> <p>一番大事なのは「個人情報保護」のことで、今後どうなっても、流出や漏洩は由々しきことです。</p> <p>絶対に、業者に渡して欲しくありません。</p>	<p>いただいたご意見については真摯に受け止め、今後検討を進めるうえで参考といたします。人流把握のためのカメラ設置によるプライバシー侵害や個人情報の流出・漏洩にご懸念があるとのことですが、鎌倉市スマートシティの取組の具体化においては、「3基本理念・基本原則」及び「4 推進体制」に記載の通り、プライバシー保護と透明性の確保、リスクや倫理的課題の明確化を行いながら、市民の皆様の丁寧に対話をしながら進めてまいります。</p>	3・4	B
18	<p>スマートシティ構想そのものは良いですが、携帯基地局の設置を間接的に後押しするのが気になります。市内には微弱な電波でも電磁波を気にする方がたくさんいます。5Gの設置で市内各地でもめています。事業者をスマートシティ構想が追い風になるようにバックアップするのはやめていただきたい。</p> <p>また、スマートシティ構想は市役所の事務の効率化を推進することにつながります。つまり、今以上に職員は在宅ワークも可能となり、市役所に出なくてよくなります。これは今の庁舎が手狭だからと推進している本庁舎移転計画とは、全く真逆の行為と言えます。スマートシティ構想が本庁舎移転をとめるための口実になるなら支持します。</p> <p>お年寄りの見守り活動にITを活用するなら、この構想は悪くないと考えます。</p> <p>ただし、文化都市鎌倉のコンセプトは、便利な都市になるのではなく、むしろ不便な古いままの街であることにあると私は考えますので、スマートシティ構想を推進しなくてよいとの結論です。</p>	<p>スマートシティの推進は、発展するテクノロジーやデータを活用し、市民生活を豊かにすることを目的としたもので、特定の技術などを後押しするものではありません。いただいたご意見については、リーディングプロジェクトの検討、実現において参考といたします。今後、リーディングプロジェクトでは、「市民目線の暮らしやすさ」などをテーマに実証事業等を鎌倉市スマートシティで展開していく予定です。</p> <p>なお、構想素案に掲載しました「6 既に動き出しているスマートシティの取組」に列記した各種事業ともしっかりと連携してまいります。</p>	1・6	B
19	<p>こんにちは。</p> <p>先日もスマートシティ推進課に陳情に伺いましたが、私は、あえて、「鎌倉らしさ」を残し、「不便な暮らしを追求する」ことこそ、本当の意味のスマートシティなのではないかとおもいました。（そのようなスマートシティにすることも可能と</p>	<p>鎌倉市スマートシティでは、「課題に見える化し、みんなで解決する」実証事業等を通じて、新たな共創の場（コミュニティ）を形成し、地域の個性やニーズを生かした多様なサービスを創出する基盤整備を進めます。</p>	1・3・4	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>陳情の際お答えいただきました)</p> <p>先日、所用で羽田空港に行ったら、受付も AI ロボットになっていて、とても驚きました。</p> <p>結局人がいるところに誘導させられ、その方の対応はおそらく問題なしだったのですが、嬉しい、とか、ハッピーな気持ちには全くなりませんでした。</p> <p>やはり、鎌倉はあえて AI 化するのではなく、ご高齢の方も、民意が高い方が多いので、人の力（人間力・愛）で、温かいぬくもりを感じ、人と人をつなぐということが一番意識してコミュニティをデジタルとアナログの両方で作る（どちらかに頼るのではなく）旧鎌倉でも電波の悪いところも多いので、そのようなところに電波を整理するということより（5G は危険だし不要）昔の生活に戻していくことこそ、真の豊かさであり、それが鎌倉らしさになると思っています。</p> <p>人間にしかない、できない力を信じて、生かす。余談になりますが、市役所の駐車場がタイムズになってしまったことも残念だと感じています。</p> <p>高齢者も、年金だけでは生きていけない変な時代になりました。だったら、せめて行政で雇用を生んだり、生活をサポートできるような仕組みづくりが必要だと思っています。</p>	<p>そこでは、あくまで主役は人であり、従来の市民サービスを継続しつつ、これを支える手段としてデジタル技術を活用してまいります。</p> <p>また、鎌倉市スマートシティの取組の具体化においては、構想素案「3 基本理念・基本原則」及び「4 推進体制」に記載に従い、個人情報を取り扱う取組については、個人情報保護の関連法令を遵守し、透明性の高いルールと手続きに従い、リスクや倫理的課題の明確化を行いながら、十分な市民理解の醸成に努めます。</p>		
20	<p>過去の資料を拝見しましたが、市民の皆さんの間でも、まだ「スマートシティは、テクノロジーでスマートにすること」という視点が根強いと思います。若い人はそれでもついてきますが、お年寄りは敬遠してしまうのではないのでしょうか。</p> <p>広く門戸を開き、「老若男女が気兼ねなく交流し、助け合いながら、楽しくスマートになっていく」という視点をもっと強調する必要があると思います。「ココロを満たす。つまり、ハート優先。テクノロジーは手段の一つ」ですね。これは「青臭い理想論」ではありますが、それでも、理想を語らないといけない段階だと思います。一つのアイデアとして、「スマートシティ構想の顔」を作ると良いと思います。できれば、「老若男女」の 4 人。その人たちが、プロジェクトに実際にに関わり発信することで、多くの方々を取り込むことにつながります。プロジェクトの「フレームワーク」がまだパリッとしてません。「イノベーター理論」を念頭に置いた、運営体制と市民を巻き込んでいく戦略について、まとめてみました。もしよろしければ、Steering Team に参画して貢献したいと考えております。</p> <div data-bbox="617 926 1576 1444"> <p>Project 運営体制の提案：イノベーション理論の応用</p> <p>Steering Team :</p> <ul style="list-style-type: none"> > 市役所の政策創造課の皆さん > 外部専門家（鎌倉のために「商売抜き」で貢献できる方々） > 市民対話のInnovatorsの人たち <p>Steering Team の役割: 市民、市政、社会など多面的な視点で「ありたい姿」を見定める。それを常にアップデートしながら広報し、市民を巻き込んで活動を育てていく。</p> <p>● 徐々に感化し取り込む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 活動参加 ○ 意見交換、相互評価の場 ○ 説明会、ピッチセッション ○ 広報活動 ○ On/Off-line使い分け <p>● 初期から取り込み協働する</p> <p>Innovators: 普段から持っている問題意識と市の構想の一致点を見だし、積極的に、有意義・建設的な貢献ができる人々</p> <p>Early Adaptors (初期採用層): スマートシティ構想が動き出したら、いち早く賛同し、自らも貢献・意見したがる層</p> <p>Early Majority (前期追従層): 「確かに、こういうの大切だよ」と賛同する層</p> <p>Late Majority-Laggards (後期追従層): 「そういう方向に行くなら…」と受け入れる層 「既に世の中がそうなっているのだから」と従う層</p> </div>	<p>鎌倉市スマートシティでは、令和4年度から「共創を生み出す基盤構築」の一つの取組として「多くの市民が参加できる合意形成プラットフォーム」の構築に取り組みます。オンラインとオフラインを組み合わせ、誰もがオープンに参加できる仕組みを構築し、「市民起点の実現と新たなコミュニティの形成」を進めてまいります。いただいたご意見につきましては、この取組を進める上で参考といたします。</p>	4	B
21	<p>スマートシティ構想の意見応募なのに、FAX、メール、直接持参で提出するあたりが既にスマートではない。まずは、FAXの廃止から行っては？</p> <p>【意見】</p> <p>テーマ：鎌倉市のホームページをもっとスマートに！</p> <p>経緯：ほとんどの自治体のホームページは必要な情報にたどり着けない。その為、市役所へ電話や直接行き、内容を聞いたリ調べたりするのはお互いにメリットがない。</p> <p>具体的内容：</p> <p>ホームページ訪問者の年齢を含む家族構成が解れば、自ずと必要な情報群は絞られる。</p> <p>例) 6才の子供がいるなら、学区や子育て周りの情報。高齢者が含む世帯な高齢者関係等々</p> <p>その為には、会員登録という作業が必要になるが、家族構成レベルなら個人情報に当たらないのでメールアドレスだけの必要最小限のデータ保持で済む。</p>	<p>鎌倉市スマートシティの広報に関しては、まず対象者に合わせた適切な広報手段を採用するとともに、豊かな市民生活やまちの魅力向上につながる優れた取組などを積極的にわかりやすく発信する取組も推進します。</p> <p>また、市民の皆様が必要なタイミングに必要な情報に容易にアクセスできるホームページづくりに関するご意見は、令和4年度以降の鎌倉市スマートシティの具体的な取組において参考といたします。</p>	4	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>世の中のアパレル EC サイト等は、自分の性別や身長を登録するだけで、その人へのオススメが山のように提案される。そして、どのカテゴリを見たか、興味があるのかをビックデータとして保管している。</p> <p>自治体も世の中のサイトを少しは見習い。訪問者がどんな情報が知りたいかを提案する。</p>			
22	<p>長寿社会を健全に暮らしていく為に、2019年より町内の有志で移動手段のみにテーマを絞り、その方策を模索しています。高齢者の移動については、通院と買い物だけに限定した方法が考案されがちですが健全な老後を保つには不足の感があります。</p> <p>高齢者も行動の枠を広げる事が、心身ともに健康を保つ要件だと考えます。</p> <p>公共交通機関とオンデマンド相乗りタクシーを組み合わせることで、行動範囲は広げることが出来ると思います。鎌倉には、中央公園、大船フラワーセンター、材木座や由比ヶ浜など、地形の穏やかな、自然を楽しめる場所にも恵まれています。</p> <p>この少し大きめの構想のほかに、町内の移動にも難儀している高齢者のためには社会福祉協議会が運営している、福祉センター利用者のための送迎用ワゴン車を拡大利用することを、昨年より、社協に提案しています。</p> <p>現在有る公共交通機関のみでは、長寿社会への対応は無理であることは、近隣の高齢者を観察していて、明白です。オンデマンドモビリティにおいても、現在、雪の下や浄明寺で模索中のグリーンスローモビリティと合わせて、現存するタクシーを利用した乗合タクシーも検討の価値ありと考えます。</p> <p>昨秋、国土交通省がタクシーの相乗りを承認しましたので、機は熟していると期待しています。</p> <p>鎌倉市のスマートシティの成功を期待しております。</p>	<p>移動対策、外出支援は市としても解決すべき課題と捉えており、いただいたご意見については、リーディングプロジェクトの検討、実現の参考といたします。具体的には、リーディングプロジェクトは、「市民目線の暮らしやすさ」をテーマとして市民と議論を深め、市民起点の実証事業等を展開してまいります。</p>	5	B
23	<p>【提言内容】</p> <p>下記は、「鎌倉市スーパーシティ構想（素案）Pdfの表紙に書かれている項目ですが、ここに、鎌倉市の「古い」の現状と、将来の「古い」の未来図を加えて下さい。高齢者の生活をどのように支えていくかが、鎌倉市の人口の大多数を占める有権者の合意をとる要素と認識しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 構想の概要 2 鎌倉市を取り巻く環境の変化 3 基本理念・基本原則 4 推進体制 5 リーディングプロジェクト 6 既に動き出しているスマートシティの取組 7 住みやすさと幸福度の数値化・指標化 <p>【一つ目のご提案】</p> <p>鎌倉市高齢者から、自分たちの後の若手に鎌倉市が「持続性のある未来をこのように考えている」という絵姿を分かり易く見せる工夫をして欲しいと思います。具体的には、現状を放置しておく確実に近未来で起こる事象を列挙してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 現在の病院・クリニック・薬局とその利用者数の推移と状況 (利用者に占める高齢者の比率・医療費の状況) これの、10年後/20年後の予想 ② 救急車の稼働状況（利用者に占める高齢者の比率・呼出しの理由） これの、10年後/20年後の予想 ③ 独り暮らし世帯数の状況（内高齢者世帯数は？） これの、10年後/20年後の予想 ④ 地域のインフラの老朽化の状況：電気（電線）、水道、下水、植生（樹木が大きくなりすぎている） このメンテナンス整備に掛かる費用の増加は？ これの、10年後/20年後の予想 	<p>【提言内容】及び【一つ目のご提案】の趣旨を踏まえ、鎌倉市スマートシティ構想の付属資料に、「2 鎌倉市を取り巻く環境の変化：特有の課題『超少子高齢化』」に関するデータを掲載します。具体的には「本市の人口推計（総人口推計、年齢区分別推計）など、「鎌倉市の『古い』の現状と、将来の『古い』の未来」を示すデータ等を掲載いたします。そのほか、公開可能なデータを検討し、ホームページ等で公開してまいります。</p> <p>【二つ目のご提案】につきましては、機会があればぜひお二人のご意見を伺いたいと思いますし、ご紹介いただきました書籍につきましては拝読いたしました。</p> <p>また【最後に】につきましては、市もこうした取り組みを広げていくためには「市民目線でのコミュニケーション」の実践が重要だと認識しております。「4 推進体制」に記載の「戦略的な広報」の実施にあたり、ご意見を参考といたします。</p>	2・4	A

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>⑤ タクシー・バス・救急車等の運転手の雇用状況（高齢化で人手不足が起こっていないか） この、10年後/20年後の予想</p> <p>⑥ 保育園・幼稚園・小学校等教育施設の稼働状況と運営費用推移 子供の数も減りますが、先生・管理者も人手不足で減って、運営にかなりの支障がでると思います。 この、10年後/20年後の予想</p> <p>で、あるから、〇〇をしなくてはならない、という議論を、「あるべきマチの姿」と並行して見せていく必要があると思います。</p> <p>【二つ目のご提案】 このことを強烈に認識したのは、落合陽一さんの新著「落合陽一 34歳 老いと向き合う.超高齢化社会における新しい成長」を読んだからです。この本の中に、鎌倉市にお住いの「養老孟司先生と落合陽一さん」の対談が入っています。折角ですからこの『老い』に向き合うテーマには、養老先生も、可能であれば落合陽一さんも顧問にお迎えして、ご意見をお伺いすべきと考えますが如何でしょうか。どんなマチにするか。数字では表せない『世界観』を養老先生はお持ちのはずです。また、「養老先生」もこのプロジェクトに関わっていること、先生のご協力を得られれば、市民の同意も得られやすくなり「スマートシティ構想」の実現も早まるのではないのでしょうか。これは、二つ目のご提案です。</p> <p>【最後に】 この構想の実現には、地縁のある有名人（隈研吾さんや養老先生）の支援も大切ですが、なぜ今しなければならないかを促す『ナラティブ』が不可欠です。発信の文章も、計画と実行したいことが一体となった分かり易い言葉にすることです。それには、プロのサポートも必要だと思います。事務局の発信ではなく、例えば、首長による『想いの籠った肉声』に仕立てていく必要があります。ゆっくりやっていると、あっという間に、5年、10年経ってしまいます。そんな時間をかける余裕は、年を追うごとにどんどん無くなって行きます。このまま推移すれば、老いのため、街はさらに活力を失っていくでしょう。</p> <p>以上です、拙い弊見ですが、少しでもご参考になれば幸いです。</p>			
24	<p>【鎌倉市スマートシティ構想（素案）該当箇所】 p.12 「6.既に動き出しているスマートシティの取組」</p> <p>コロナ禍における入国規制や外出抑制等の動きにより、商業・観光に対する経済的な影響は大きく、厳しい経営状況が続いています。そのような状況も踏まえ、「スーパーシティへの挑戦」に記載されているロードプライシングについて、以下意見を提出いたします。</p> <p>附属資料内の市民対話でとりまとめられている日常の困りごとにおいても、「移動手段が減って買い物等に困る」という記載があることを含め、自動車交通量の抑制を図る中でも、市内へ流入する自動車交通に対して一律に課金するのではなく、買い物・物流等の商業目的や観光目的で来訪・滞在する車両には課金せず、通過交通に限定して課金されるような取組が望ましいと考えます。</p>	<p>観光都市という本市の特性上、休日昼間は市内人口を上回る市外からの来訪があり、特に鎌倉駅周辺の観光集中域内においては、車両交通量は約3割が市街からの流入車両という状況です。この3割の車両流入により、道路流量が飽和状態であり、著しい渋滞の主要因となっています。</p> <p>そのため、公共交通機関の定時性や緊急車両の到達時間の速達性、その他、すべての人（市民、観光客等）がスムーズに移動できる交通環境を確保するために、渋滞発生の一因である休日昼間の来訪車両に対して課金を行う方針としています。</p>	6	B
25	<p>1 構想の概要 1) 将来像について 将来像については、賛同します。</p> <p>補足意見：QoLの中に、QoDのコンセプトも含んで頂くことを提案致します。</p> <p>「最期まで自分らしく暮らせること」は、とても大切な視点です。例えば、「移動」の制約が出てくることを、「スマートシティ」の構想として、どうバックアップし、QoLの高いものに上げていくかという発想を持てることが、「誰一人取り残さないを大切にすること」につながると考えます。単なる「デマンド交通の充実」といった対策のみでは満足度の高い施策の展開は難しいと考えます。複合的な視点を持てるキーワードが重要であると考えます。</p>	<p>まず、鎌倉市スマートシティでは、複雑・多様化する市民ニーズや地域課題への対応、持続可能な地域社会の構築のため、「課題を見える化し、みんなで解決する」実証事業等を通じて、新たな共創の場（コミュニティ）を形成し、地域の個性やニーズを生かし市民のQoLやまちの魅力向上につながる多様なサービスを創出する基盤整備を推進します。</p> <p>「1 構想の概要」の「対象区域」は「市全域」であり、誤解が生じないよう「グリーンフィールド」と「ブラウンフィールド」の区分をイメージ図から削除します。</p> <p>また、「2 鎌倉市を取り巻く環境の変化」の「特有の課題」については、構想策定に</p>	1・2 3・4・5	A・B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>運営のしくみを再構築し、質の向上、運営コストの低減などの観点で、今後の自治体運営の改革につながると考えます。</p> <p>DX の見直しの中に「行政業務の仕分け」を加えることを提案します。</p> <p>(地域コミュニティ内の DX 基盤の提供)</p> <p>地域の運営を担う自治組織の DX 化も重要な課題です。地域組織が自由に、使いやすい DX 基盤は、自治体で提供することが、運用の連携などを考えると必須と考えられます。現在は、自治活動の DX 化として、LINE Works を自治会で利用するなどの実践例が出てきていますが、単なる SNS を越え、助け合いや、地域内の物品等のシェア、不用品の交換などをコミュニティ通貨を活用して運用するなどの発展も視野に入れ、市民側の DX 基板への配慮も重要課題として位置付け頂きたいと考えます。</p> <p>3 基本理念・基本原則</p> <p>1) “市民起点”、“共生の精神”</p> <p>“市民起点”の意味、意義を一般市民がどう受け取り、市民としてまちの運営に参加をしていくのか？についての、徹底的な議論をする場を設けることを提案します。</p> <p>「自助、互助、共助、公助」の民主主義的な役割と責任の理解が促進されないと、この理念の本来の姿の実現は出来ないのではと危惧します。行政各局が連携しつつ、この理解促進を、“スマートシティ計画実現の重要な原動力の育成”として実施することを提案します。</p> <p>2) “市民のまちの運営の自分事化”</p> <p>1) とも重なる部分も多いですが、自分が参加することで、まちの運営をより良く変えることが、自分達一人ひとりの幸福につながるという発想で地域づくりに関わる人を増やすことが重要です。その仕組みを、各部門の市民とのかかわりの中で育成する機会を設けることが必用と考えます。「ジブンゴト化の推進」が分かり易いでしょうか。</p> <p>4 推進体制</p> <p>1) 推進体制</p> <p>西鎌倉地区では、連合自治会や社協、みんなの家、各自治会などが連携し、市民主体のまちづくりの活動を推進しています。このような組織や人のつながりを、スマートシティの推進母体として育成していく方向性を明確にして頂くことを提案します。</p> <p>2) 共創を生み出す基盤</p> <p>「多くの市民が参加できる合意形成のプラットフォーム」では、どんな施策を想定されているのでしょうか？ 従来の自治会や社協などの地縁組織との関係性、発展性をどのように改善していくのかについて、現時点のお考えや構想をお聞かせ頂きたいと思います。</p> <p>方向性としては、従来のものを改善するという発想より、若い世代も関わり易い新たな仕組みに置き換えていくという発想での『革命的な大胆な改革』が求められていると考えます。</p> <p>5 リーディングプロジェクト</p> <p>1) ⑥として QoD についての項目の追加</p> <p>「めざまちの実現につながる事業」の中に、⑥として、安心して最期を迎えられるまち の追加を提案します。人生 100 年時代として、人の死を先送りする傾向がありますが、きちんと最期を見つめ、QoD の向上という発想で「死」をみつめることから、今をどう生きるかという、真の QoL 向上のための新しい発想が生まれてくると考えます。この観点で、⑥として QoD 関連の目指す姿を意識する項目を追加することが望ましいと考えます。</p> <p>2) リーディングプロジェクトの推進体制</p> <p>リーディングプロジェクトの募集や推進についてのお考えをお伺いしたいと願います。</p> <p>行政や専門家、地域市民からなる協働の推進のしくみ構築が必用不可欠と考えます。このためには、従来の行政と自治会の様な仕組みでは実務が回らないことが想定されます（一部活性化できているところもありますが、高齢化、活力低下が現</p>			

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>実です)。その新たな事業形態に関する新たな仕組みの検討が必要不可欠です。この検討を課題として位置付けて頂くことを提案します。</p> <p>3) リーディングプロジェクト「市民目線の暮らしやすさ」へのアイデア 西鎌倉地区では、連合自治会や地区社協などの地域組織を母体とし、「西鎌倉地区自家用車を止めても安心して暮らせるまちづくり」実行委員会を作り、昨年度より「地域の移動」の問題に取り組んでおります。今般、『歩いて楽しいまち・西鎌倉』の実現に向けてとした提案を「地域のつながり課」を窓口としてご説明、協働の模索を始めているところです。 「自家用車を止めても最期まで地域の行きたい場所に自由に移動できるしくみ」⇔“市民目線の暮らしやすさ”の課題と認識できますので、是非ともリーディングプロジェクトに向けた企画推進を協働で進めさせていただければと願います。 ※本件は、●●個人というより、同実行委員会としての提案とお受け取り頂きたいと願います。</p> <p>4) これからの取組：分野連携による取組のイメージ図の要素の改善提案 図の要素を入れ替えることを提案します。「防災・減災」は重要な課題ではありますが、中心に置くべきものではないと思われま。改善イメージ案を提示します</p>  <p>6 既に動き出しているスマートシティの取組 1) 公的不動産の利活用 事例として「公的不動産の利活用」が挙げられています。西鎌倉地区では、旧こども会館を市民運営による地域の拠点「西鎌みんなの家」として、多世代に向けた多様なサービス・参加の場を提供する活動を進めてり、成果も挙げつつあります。この拠点活動の中で課題となっていることのひとつに、“施設のハード部分（土地、建物）の管理”があります。所謂自治会館の歴史の様に、市民運営のものは、建物からすべてを市民の責任とする考えが従来の考えですが、ハード部分の維持は活動の上でとても重たいものです。今後の地域の自主的な活動を支援・推進する観点では、鉄道等であるような「上下分離方式」の運営形態が望ましいと考えます。拠点としての運営が公的視点で地域サービスの為となっていると行政として判断ができる施設については、ハード部分は行政、運営部分を地域という新たな形態（上下分離方式）の検討をお願い致します。 震災や突発的な大規模な補修費用の捻出を、運営上の懸念材料から外せる仕組みの検討をお願いしたいと考えます。</p> <p>7 住みやすさと幸福度の数値化・指標化 1) 「社会生活環境」の部分への発想追加 上記部分に対し、“望めば、最期まで、「地域の仕事（社会的役割）」を持ち続けられる”という発想を記載頂きたいと願います。所謂企業に雇用され対価を受け取る形の「仕事」では、誰でもが雇用されることはあり得ません。地域の中で、小さく</p>			

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>ても、少額でも対価の得られる、個人にとって誇りとなれる『仕事（Life Work）（社会的役割）』を持ちつづけられることが、「地域とのつながり」「精神的充足」「身体的向上」などに大きな良い効果をもたらすと考えられます。“地域の誰かに役立つ自分で居られる”ためには、「小さな地域に役立つ“仕事”」を望めば担えることであると考えます。その発想をこの絵の中に組み込んで頂くことを提案します。</p> <p>以上</p>			
26	<p>[コメント総括] 住みよい快適なまちづくりをめざして</p> <p>1. 鎌倉市における主な課題 <少子・高齢化、安心・安全、環境保全が喫緊の課題> 鎌倉市では、(1)少子・高齢化が進行しており、②東日本大震災後の環境変化を踏まえた安心・安全なまちづくり、③脱炭素および省エネルギーなどの環境保全が主な喫緊の課題となっている。</p> <p>2. 今後に取り組むべき対策 <最新技術を駆使した低炭素社会を指向> 前述の課題を解決するために、神奈川県においては、①少子・高齢化対策としてユニバーサルデザインの活用、②安心安全なまちづくりとして防災・蓄電システムの整備、③環境保全対策として低炭素社会の構築に今後は取り組むべきである。</p> <p>3. 新たなまちづくりの提案 <脱炭素社会づくり、スマートシティの実現> また、環境政策としても、地球温暖化防止、省エネルギー対策及び再生可能エネルギー導入への一層の取組みなどによる電力供給面でのピークシフト/カットなどへの貢献および安定供給の確保など地産地消の自律的な新アジェンダの作成を通じて、鎌倉市の新たな脱炭素社会づくりは、県民の取り組み行動を基盤として、脱炭素まちづくりに向けた複合的なスマートシティの実現と普及・拡大をめざすことが必要である。</p> <p>「スマートシティへの暮らし」に関する意見（各論）</p> <p>(1)環境共生のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち並みは、樹木や植栽を多く植えて、緑地を整備した「グリーントウン」をめざす。 ・景観面では、電柱・電線の地下埋設化が大前提。 ・環境共生のまちづくりをめざす鎌倉の未来図は、どれだけエコロジーであるかが街の価値を決めるので、まちづくりの基本方針として「エコロジーの象徴」にしていくことを切に願う。 <p>(2)SDG s 未来都市に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs（持続可能な開発目標）の観点からも、住民への幸福度や満足度、不満や社会の課題などについて、「地域の持続性」を確保したまちづくりが求められている。 スマート化でデータが手に入ることにより、都市のエネルギーの消費を抑えたり、最適な都市開発を促すことによって支出を抑制したり、住宅の価格を低減したりするなど、自治体や住民のメリットは大きい。 ・鎌倉市では既に「SDGs 未来都市」に選定されているが、地域が自立して環境、社会、経済の3側面からの価値を創造する「自律的好循環」が期待されるので、深沢地区の開発では是非とも実現を目指すこと。 ・鎌倉らしさとして、緑豊かなまちづくりと持続可能な都市経営『SDGs 未来都市かまくら』の創造をめざしており、歴史遺産を守りながら、経済、社会、環境のバランスがとれたまちづくりに取り組んでほしい。 <p>(3)スーパーシティ構想の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市は、新たに成立した改正国家戦略特区法に基づいて、内閣府の「スーパーシティ構想」の対象区域指定を目指しており、AIやビッグデータなど最新の先端技術を活用して、少子高齢化や観光・交通など地域課題の解決を目指す取り組みに期待している。 まちづくりでも、デジタル技術で都市機能や暮らしを向上させるスマートシティを展開することにより新たな価値観を創出してほしい。 	<p>いただいた多岐にわたるご意見については、リーディングプロジェクトの検討を行う際にそれぞれの分野における配慮事項として参考といたします。今後、リーディングプロジェクトでは、「市民目線の暮らしやすさ」などをテーマに実証事業等を鎌倉市スマートシティで展開してまいります。</p>	5・6	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映												
	<p>・具体的には、再エネで充電した電気自動車（EV）のカーシェアリングを実施し「動く蓄電池」として活用することで、地域のエネルギー自給率向上、災害時の非常用電源として防災性向上の効果を狙うこと。</p> <p>また、再エネを利用した交通手段の提供により、点在する地域資源を新たにつなげ、地域が抱える地域課題の解決を目指すこと。新たな本庁舎をはじめとして各地にEV及び充放電器を設置して、こうしたエネルギーマネジメントの要素を組み込んだ、EV特化型カーシェアリングを地域に本格的に展開していくこと。</p> <p>環境省「脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業」に申請して、脱炭素地域交通モデルの構築の採択事業をめざす。</p> <p>また、自動運転車の運行やロボットあるいはドローンによる店舗への自動配送など物流面での実用化や遠隔診療などのサービス提供などを取り入れたまちづくりを通じて、高齢化社会や人手不足の解決につながるなど、物流、医療、教育などあらゆる分野の先端技術を組み合わせ、その相乗効果で住みやすいまちをめざす。</p> <p>・個人情報の保護を徹底して、鎌倉版の「ITのまち」のモデルづくりに期待している。</p> <p>(4)脱炭素都市をめざして</p> <p>・鎌倉市は、2050年二酸化炭素排出実質ゼロの地方公共団体（ゼロカーボンシティ）に取り組むことを表明しており、国内でゼロカーボンシティを既に実現したケースは、市有施設から排出される二酸化炭素について、市が保有するクレジットを活用して「カーボンオフセット」をすることで、実質ゼロとしている。</p> <p>対象とする温室効果ガス排出量に対し、目標設定型排出量取引制度において、省エネ等によって創出された二酸化炭素排出の超過削減量（クレジット）で埋め合わせることも加味する。</p> <p>・電気自動車および燃料電池車のカーシェアリング（共用）、自動宅配車、無人運転シャトルバス運行、無信号機、無人充電・水素ステーションの設置など、モビリティの近未来社会づくりにチャレンジしてほしい。</p> <p>・災害時も電気と熱を100%供給することにより「環境性に優れ、災害に強いまちづくり」を目指すこと。</p> <p>暮らしやすいまちづくりに向けて（まとめ） 新たなまちづくりの提案 環境と共生した脱炭素のまちづくりを実現 住みよい快適なまちづくりをめざして、鎌倉市での取り組みについての考えを以下の通り整理しました。</p> <table border="1" data-bbox="166 1234 1397 1350"> <tr> <td>1. まちづくりの課題</td> <td>(1)持続的な開発</td> <td>(2)環境保全</td> <td>(3)脱炭素なまちづくり</td> </tr> <tr> <td>2. 今後に取り組むべき対策</td> <td>①開発の推進</td> <td>②環境との共生</td> <td>③脱炭素都市を指向</td> </tr> <tr> <td>3. 新たなまちづくりの提案</td> <td colspan="3">環境と共生した脱炭素のまちづくりを実現</td> </tr> </table> <p>1. 鎌倉市における課題 開発・保全とまちづくり 鎌倉市では、(1)持続的な開発、(2)環境保全、(3)脱炭素なまちづくりがまちづくりの課題となっています。</p> <p>2. 今後に取り組むべき対策 持続的な開発・環境との共生・脱炭素都市を指向 前述の課題を解決するために、鎌倉市におけるまちづくりは政策および施策として、 ① 持続的な開発の推進、 ② 緑化と自然環境との共生、 ③ 脱炭素都市を指向 を三位一体として、取り組むべきです。</p> <p>3. 新たなまちづくりの提案 周囲の環境と共生した脱炭素なまちづくりの実現 また、鎌倉市の新たなまちづくりとして、脱炭素都市を持続的に開発し、環境との共生を図りつつ、バランスよくまちづくりを進める必要があります。</p>	1. まちづくりの課題	(1)持続的な開発	(2)環境保全	(3)脱炭素なまちづくり	2. 今後に取り組むべき対策	①開発の推進	②環境との共生	③脱炭素都市を指向	3. 新たなまちづくりの提案	環境と共生した脱炭素のまちづくりを実現					
1. まちづくりの課題	(1)持続的な開発	(2)環境保全	(3)脱炭素なまちづくり													
2. 今後に取り組むべき対策	①開発の推進	②環境との共生	③脱炭素都市を指向													
3. 新たなまちづくりの提案	環境と共生した脱炭素のまちづくりを実現															

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>具体的には、景観・風致、緑地保全・緑化推進、道路・交通整備などの都市計画・都市開発、市街地整備を進める際に、特に住宅や産業施設などの大規模開発では、周囲の自然環境と共生した脱炭素なまちづくりの実現と普及・拡大をめざしていくべきです。</p> <p>環境共生とは、地球にやさしく、周りの環境と親しみ、健康で快適な生活を過ごせることです。</p> <p>言い換えると、地球環境への配慮がされており、周辺環境へ負荷をかけずに、健康で心地良いことでもあります。</p> <p>The diagram illustrates the concept of 'Environmental Symbiosis' (環境共生) as living together with the Earth environment. It is supported by four pillars: <ul style="list-style-type: none"> 地球環境の安全性 (Safety of the Earth Environment): Includes energy conservation and effective use, effective use of natural and unused energy, and effective use of energy resources. 良好な生活環境の持続性 (Sustainability of a Good Living Environment): Includes peace and safety for a comfortable living environment, and consideration for a rich society. 自然環境との親和性 (Affinity with the Natural Environment): Includes consideration for biological richness, enjoying the benefits of the natural environment, and harmony with the beautiful landscape of the region. 環境と共生するライフスタイルの実践 (Practice of Environment-friendly Lifestyles): The overall goal of living in harmony with the environment. </p>			
27	<p>件名：鎌倉市スマートシティ構想（素案）について <素案全体の印象> スマートシティ構想の素案はまとまりよく記述されており理解できました。しかし、このような政策構想では体系的、俯瞰的な視点で記述する必要があるため、やむを得ないことは承知していますが、全体として網羅的、観念的、抽象的な印象を受けました。</p> <p>設定している地域や課題の何が重点項目か強弱かももう少しメリハリがほしいと思いました。</p> <p>以下気になった点を記述しました。</p> <p><素案で気になった点></p> <p>1. 過去の政策の実施を総括する必要性 素案のベースとなっている第3次総合計画の成果を総括しているか。本構想の素案は長年にわたる第3次総合計画の第1期から第3期基本計画をベースしていると考えられます。従ってその実績を総括的な説明の上に立って構想を構築する必要があるのではないかと思いました。</p> <p>2. 数値データの根拠をベースとする構想の構築の必要性 構想（素案）で設定された社会課題や3カ所の対象地区の選定根拠となる数値データを何らかの形で示すべきではないかと思いました。</p> <p>例えば、対象地区の人口動態の分析による超少子高齢化や何らかの指数データによる対象地区のオーバーツーリズムの深刻さ程度を示せばさらに説得力が増すのではないかと考えました。</p> <p>3. 長期プロジェクトで検証可能な具体的なマイルストーンの設定の必要性： プロジェクト構想の推進では、概念設計、基本設計、詳細設計などの段階であれ推進過程では期間を切って具体的なマイルストーンが必要ではないかと考えています。</p> <p>過去すでに10年以上の推進と今後も長期にわたるプロジェクト推進ではなおさら途中過程で具体的なアウトプットが必要だと思います。そのためには各推進過程での具体的なマイルストーンが必要だと思います。</p> <p>4. 推進体制の中にPDCAを組み込む必要性： マイルストーンの設定と同時に、推進体制のマネジメントの一環としてPDCAの管理サイクルは重要だと思います。構想の中にぜひ組み込んでおく必要があると思いました。</p> <p>5. 財政的な規模や見通し 構想の中に財政的な規模や見通しが一切ないのが気になりました。</p> <p>6. その他</p>	<p>1. 過去の政策の実施を総括する必要性につきましては、第3次鎌倉市総合計画第3期基本計画の外部評価を踏まえた総括評価と提言における「2011年の東日本大震災以降、災害に対する防災・減災への対応の必要性や、ICT、AI、IoTなどイノベーションにともなう社会・経済・環境の変化に迅速に対応していくべきこと、またSDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)) への対応など、時代の変化に応じた基本構想の適応性も必要となってきた。」との意見を踏まえ、本構想においてもSociety5.0やSDGs、さらに昨今の新型コロナウイルス感染症に象徴される生活様式の変化やデジタル化の進展の動きを捉え、概要に記載をしているところです。</p> <p>2. 数値データの根拠をベースとする構想の構築の必要性につきましては、ご意見を踏まえ、本構想の附属資料に、人口推計、観光客数の推移を掲載します。</p> <p>3. 長期プロジェクトで検証可能な具体的なマイルストーンの設定の必要性につきましては、本構想の期間を第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画の年次と合わせ、「インストール期（導入期）」とし、まず、産官学民の連携による共創のプラットフォームの構築を進めてまいります。こうした取組を進める中で、具体的なプロジェクトを事業化した際には、適切なマイルストーンを設定してまいります。</p> <p>4. 推進体制の中にPDCAを組み込む必要性につきましては、鎌倉市スマートシティの事業効果を、「7 住みやすさと幸福度の数値化・指標化」によって可視化するとともに、その評価を行い、PDCAサイクルを回してまいります。</p> <p>5. 財政的な規模や見通しにつきましては、本構想の基礎となる第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画に基づき、新たな事業を実施するに当たっては、真に市民が必要とする行政サービスに注力するため、証拠に基づく政策立案（EBPM）を推進することで、特に優先して取り組んでいく施策を明確にするとともに、政府各省庁が所管するスマートシティに関連する補助事業の積極的な活用も視野に入れ、選択と集中による行財政運営を徹底してまいります。</p> <p>6. その他のスーパーシティ構想につきましては、2030年ごろに実現される未来社会の先行実現を目指し、市民が参画し、市民目線で、生活全般にまたがる「複数分野の先端的サービスの提供」「複数分野間でのデータ連携」「大胆な規制改革」をポイントとする政府の国家戦略特区を活用した枠組みです。これは、本市が実現を目指す「誰もが生涯にわたって、自分らしく安心して暮らせる共生社会」の構築の取組を充実・加速化</p>	1・4 6	A・B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>国家戦略としてスーパーシティ構想が公募されており、31地区が応募し、鎌倉市も応募していることが Web 上で見ました。また、スーパーシティとスマートシティの概念は少し異なるという記事も見ました。</p> <p>鎌倉市のスマートシティ構想（素案）とどのような関係があるのか気になりました。</p> <p>鎌倉市の政策の推進のプロセスにおいてデータやデジタル技術の利活用に関心を凝らせています。全国の他の市のスーパーシティ構想についてもフォローしたいと考えています。</p> <p>コメントは理解不十分、誤解等により一方的で方向違いのコメントになったかもしれないと不安な気持ちを持ちながら書きました。</p> <p>以上</p>	<p>させるものであったことから挑戦したものです。</p>		
28	<p>①市民とビジョンや具体的なメリットを共有する</p> <p>素案には「スマートシティの取組によって市民の QoL とまちの魅力を向上」と書かれており、賛成しています。一方でスマートシティ、IoT、DX 等は、知らないもしくは想像ができないために不安を感じる市民の声を聞くこともあるため、スマートシティが実現すると市民の生活にどのようにメリットがあり、QoL が向上するののかというビジョンを示せることが大切ではないでしょうか。</p> <p>②鎌倉らしさの定義</p> <p>「鎌倉の文化や歴史を踏まえた幸福のあり方を可視化」とありますが、鎌倉らしさの定義が不明です。鎌倉らしさ、鎌倉らしいウェルビーイングとは何か、という定義を共通認識として持てると「それって鎌倉らしいよね」という会話になるのではないのでしょうか。</p> <p>いま個人的に「かまく LIKE」という言い方をすることがあります。例えば、あるお店を見てあの店って「かまくライクだよ」とか、人の振る舞いを見て「かまくライクじゃないね」と言ったりしています。私の中で「かまくライクな人」は知的で心にゆとりがあり、ジェントリーな振る舞いができて自然が好きな人なのですが、全てにおいてこのように「かまくライク」が定義できると思っています。スマートシティ実現には様々な指標が必要になりますが、市民にとって難しいものではなく、市民が楽しんで使ってくれるような指標を作り、アプリ等で「あれは3かまくライク」「この場所は5かまくライク」のように評価できるようなものが作れると、市民参加と共創が進むと同時に、より良いかまくら文化の構築につながっていくのではないのでしょうか。</p> <p>③防災・減災への市民参加</p> <p>豊かな自然環境は一方で災害とも隣り合わせです。住んでみて実感したのは、危険箇所の多さですが、市民が家の周囲半径50m ずつでも手入れする習慣があればかなり改善するのではないかと感じています。自家の周囲のハザードマップや危険箇所を通知するようなシステムはたしかに大切ですが、景観を守り積極的に自然資産の利活用を行っていくための仕組みになると良いと思います。たとえば、地域コミュニティアプリ等で「この木は危ないから切ってほしいな」とか、「この草かりするよ！」等のマッチングができるだけでも、高齢の方や障害のある方が住みやすくなると思いますし、依存先として</p>	<p>①市民とビジョンや具体的なメリットを共有する、とのご意見につきましては、令和4年度以降に「市民目線の暮らしやすさ」などをテーマとしたリーディングプロジェクトの実証事業等に取り組み、優れた取組を積極的に発信して、市民の皆様へ具体的なメリットを実感していただけるよう努めてまいります。</p> <p>②鎌倉らしさの定義に関するご意見つきましても、鎌倉市スマートシティの取組において重視する、市民参加と共創、そして基盤構築の取組の参考といたします。</p> <p>③防災・減災への市民参加、④交通データの活用、⑤バイタルデータの活用につきましては、リーディングプロジェクトの形成、実現において参考といたします。</p> <p>なお、個人情報を取り扱う取組については、個人情報保護の関連法令を遵守し、透明性の高いルールと手続きに従い、リスクや倫理的課題の明確化を行いながら、十分な市民理解の醸成に努めます。</p>	5・7	B



No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>の縁もできると思います。</p> <p>④交通データの活用 素案にも慢性的な渋滞の緩和が挙げられていますが、交通量データ等を活用して車両を大きな道に流すことで、徒歩や自転車の人が安全に行き来しやすい街になると良いと思っています。特に鎌倉の場合、住宅街は細い道が多く、すれすれのところをトラックや大きな車両が通ることがあり、見ていて危険を感じます。人流や交通データからは、人の多い時間帯がわかるため、その時間帯は車を別の道に流すようにする等の取り組みができると良いと思います。子供やお年寄りが安全に通行できる時間帯を作ることは、住み続けられる街の要件として必要ではないでしょうか。</p> <p>⑤バイタルデータの活用 素案では、例としてハザードマップと要援護者の位置情報の活用を挙げられていますが、緊急時に限らずちょっとしたことを助け合えるコミュニティを作ることが、地域としても魅力につながると思います。日本人は支援を求めることが下手と言われており、「言ってくれば手伝うのに」ということも1人で抱える傾向があります。また鎌倉に住んでから迷子のご老人の放送が頻繁に聞こえるのが気になっています。</p> <p>独居のお年寄りはITも使っておらず日頃から孤立しがちであり、健康を害する方も多いと思います。たとえば、歩行画像から認知症の傾向を読み取ったり、市民のパーミッション式にはなりますが、血圧や心拍などのバイタルデータを取得し、モニタリングする仕組みを作ることができれば、高齢者の安否確認はもちろん、生活習慣病予防にも活用することができると考えます。鎌倉らしい、行政側から「健康になりなさい」とか「安全を守りなさい」を一方向的に働きかける仕組みではなく、自然と自分の健康状態や安全管理に目が向くようなサービスを構築できると、ウェルビーイングにつながるのではないのでしょうか。</p>			
29	<p>鎌倉市スマートシティの背景</p> <p>- 超少子高齢化</p> <p>鎌倉市固有の問題ではなく、人口減少は日本全体として避けることができない問題だという事を前提に考える必要がある。つまり、居住エリアを増やして一時的に人口の減少をつなぎとめるといった方法は、30年～50年にわたり今後も人口が右肩上がりに増加する事が見込める場合にのみ合理性が見込めるものであり、正に昭和の時代の手法である。</p> <p>将来の人口減少が確定的な現状においては効果の持続性もなくSDGsの考え方にも反する。</p> <p>また、人生100年の時代に市のあり方(方向性)を考える時「その方針は100年後の状況に対応できる内容なのか?」といった観点を常に当てはめて考える必要がある。</p> <p>30年先が終着点ではない以上、今以上の居住エリアの拡大を行ったら将来のお荷物になる事は間違いない。</p> <p>タイミングとして人口減少は既に始まっているので、ここから言えることは、対策は今より人口が減少している状態を想定してうまく機能する事を前提にする必要があるという事である。</p> <p>- 災害への脆弱性</p> <p>土砂崩れ等への対応は地道な整備しかないと思うが、人間の行動によって今後の状態に影響・効果を及ぼせるものとして、気候変動を見越した住まい方の意識の改革がある。</p> <p>境川水系・柏尾川は日本全体で8河川しかない特定都市河川(2019年時)であり、特に鎌倉は大船・深沢/対岸の藤沢は宮前・鶴沼がその流域にもなっており、現在の想定では考慮されていない気候変動による降雨災害の激甚化の影響が加味されれば、現在のハザードマップでの想定以上の水害災害がより高頻度で起こる事を前提に、実施しようとする対策を見つめる必要がある。</p> <p>津波への備えとしては、滑川への水門設置が大きな効果が見込められると思われる。静岡県で行われているように県や国に対して積極的なアプローチを行い、市の中心部(由比ヶ浜、材木座地域等)への津波被害軽減を本気で考えて欲しい。何の手当もしないで市役所庁舎を移動することで何か解決するような錯覚を市民に起こさせてはいけない。</p> <p>市役所は(あなたの)家ではない。市役所移転で津波に流される人・家は減らせない。</p>	<p>いただきました鎌倉市が抱える様々な地域課題に関する認識については、鎌倉市スマートシティの具体的な取組を進めるうえで、参考といたします。</p> <p>また、人口減少が始まっていることを前提としたまちづくりにつきましては、本市では「立地適正化計画」の策定に取り組んでおり、同計画(案)で示してる居住誘導区域は、これまでの居住エリアを広げようとするものではありません。</p> <p>構想の概要(深沢地区の開発内容について)の部分でご指摘いただきました河川の対策につきましては、既に市の河川事業として実施しているところです。鎌倉市スマートシティの取組では、従来のやり方では解決できないもの、またテクノロジーやデータの活用により効率的・効果的となるものを対象としてまいります。</p> <p>このように、従来の施策やサービスを継続しつつ、解決すべき課題に対して、技術革新や社会情勢の変化を踏まえた最適な手法を検討していくことが、鎌倉市スマートシティの取組においては重要だと考えます。</p> <p>特に、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大による人々の価値観や行動様式の変化、デジタルトランスフォーメーションの加速化などの情勢の変化に対応し、鎌倉市スマートシティの取組をしっかりと進めてまいります。</p>	1・2 5	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>- 慢性的な交通渋滞</p> <p>旧鎌倉市街については道が狭い事が主因であると思われるが、オーバーツーリズムとも関連して、観光には自家用車で来ない方が便利な状態を作ることという事を目標に整備する必要がある。</p> <p>もう一つの課題として藤沢-逗子・横浜間の通過トラヒックとしての渋滞の問題がある。</p> <p>特に手広・深沢付近については、観光以外の輸送・勤務で常に高いトラヒック状態となっている。近隣の国道である134号線/1号線も高トラヒックであるため、少なくともこの地域に大きな集客施設を作らないなど、(2022年時点でやっているような一時的な興行を誘致するのは基本的に影響が異なり)新たにそこを目指すようなトラヒックを発生させたりしないことが重要である。</p> <p>構想の概要</p> <p>- 深沢地区の開発内容について(少なくとも、やってはいけない事)</p> <p>国の治水対策の方針として、旧来から行われてきた(川の)その場所での対処・対応を行うのではなく流域全体で治水を考えるという方針が鮮明になってきている。</p> <p>典型的なものとして、ハザードマップでの浸水域に対して土を入れて、その土を盛った場所(のみ)が守られる(=押しつけた水で周りや対岸は浸水深が深くなる)といった手法は、減災・強靱性の確保の考え方からは真逆の効果を生むという認識が一般的である。境川・柏尾川流域でも川沿いに雨水貯留池が建設されつつあるのに対し、深沢地区で予定されている嵩上げは事業名を伏せて工事内容を見たら(、あるいは純粋に物理的な観察をしたら)、内容的にも規模的にも上流で行っている事業と矛盾する計画です。</p> <p>境川・柏尾川が、特定都市河川浸水被害対策法で全国で8河川(2019年時)しか指定されていない河川・流域である事を軽視しているようにしかみえず、このままではなるべくして水害に見舞われる未来が容易に想定できます。想定外であったとは絶対に言ってほしくない。</p> <p>[参考]</p> <p>特定都市河川浸水被害対策法(ではどのような地域を指定しているのか)</p> <p>第一章 第一条 この法律は、都市部を流れる河川の流域において、著しい浸水被害が発生し、又はそのおそれがあり、かつ、河道等の整備による浸水被害の防止が市街化の進展により困難な地域について...</p> <p>リーディングプロジェクト</p> <p>- 市役所機能の集約・分散について</p> <p>基本的に庁舎機能を深沢にほぼすべて集約するのは、市民がサービスを受けるためのコストと建築コスト等の観点から最適ではない。腰越地区は同じモノレール沿線だとしても大船、鎌倉からは交通費だけでも高くなるし、深沢に集約してしまっはより大きな建物を作る必要が生じる。</p> <p>IT化で市民が市役所に赴かなくても用が済むようにするより、市役所内部での業務のIT化を進めて2拠点で通常の業務が行えるようにした方がずっと確実に必要な事です。</p> <p>実際いまや多くの企業がそうやって仕事を行っている。部門間で対面でないと用が済まない業務が全体に占める割合は極めて限定的でなはずです。(むしろONLINEなら部門間を含め50人超えの打ち合わせ・会議でも容易に行える事を考えると、1000人以上が一カ所の建物にいなければ問題になる程効率が落ちるとするのは想像がつかない。現状で市が目指している手法は、目指すところからして時代遅れの内容でとても残念なものとしか言えない。)</p> <p>まして、コロナ収束後、元の通勤体制に戻った時にモノレールの乗車率やホームの混雑度の関係から職員が時差通勤をしなければいけないはずで、そこまでして市役所を一カ所にまとめるというのは、とても不自然な圧力が働いているとしか思えない。(当然、職員の定期代も高く付く。市民のメリットはどこにあるのか?)</p>			
30	鎌倉市スマートシティ構想を拝見し、2つの課題があると感じました。そのため、構想を推進していくために有効だと考え	まず、「課題 1 地域を支援する複合的なデジタルリテラシーを有するサポート人材の	4	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>る対策案を記載いたします。</p> <p>課題 1 地域を支援する複合的なデジタルリテラシーを有するサポート人材の不足 対策案：構想を実現へ導く地域サポーター育成モデルの構築</p> <p>スマートシティを推進していくために、構想を支える地域内の人材育成や、学び合えるコミュニティの形成が重要になります。地域内でスマートシティ構想を下支えする地域サポーター育成モデル(市の認定制度 / 例 ファミリーサポーターなど)を構築し、実現させることで解消していくことが期待されます。</p> <p>課題 2 デジタル・ディバイド及び学習機会の格差 対策案：公共施設への FAB 施設導入とサポートプログラムの実施</p> <p>市民のデジタルリテラシー向上には、学習の機会提供と環境整備が有効です。理想的には、図書館又は公共施設内で 3D プリンタなどのテクノロジーを学べる FAB 施設の導入し、サポートプログラムを実施することでデジタル・ディバイドの解消が期待されます。鎌倉市が掲げるスマートシティとは、単に効率性だけではなくこれからの日本における地域のあり方を提示するものだと理解しています。特に社会的弱者とされる高齢者やハンディキャップを持たれる方、生活困窮者、不登校児童などが、地域内で新たな未来の可能性を見出していくことができる仕組みづくりであって欲しいと期待しています。</p>	<p>不足」についてご指摘いただきましたが、鎌倉市スマートシティでは、「課題を見える化し、みんなで解決する」実証事業等を通じて、新たな共創の場（コミュニティ）を形成し、地域の個性やニーズを生かし市民の QoL やまちの魅力向上につながる多様なサービスを創出する基盤整備を推進します。本構想では、官民連携による市民データサイエンティストの養成など、自ら課題解決に取り組む人材の育成にも取り組んでまいります。</p> <p>また、「課題2 デジタル・ディバイド及び学習機会の格差」の「対策案：公共施設への FAB 施設導入とサポートプログラムの実施」につきましても、「4 推進体制」における共創を生み出す基盤構築を進める中で、いただいご意見を参考に、FabCitizen の育成などに取り組んでまいります。</p>		
31	<p>筆者は、50 年間、主として発展途上国のインフラ開発計画策定をおこなってきている。日本都市計画学会の永年の会員である。その学会誌最新号に“（村上、森本）スマートシティと持続可能性”が記載されている。スマートシティの要素として、スケルトンとインフィルから構築され、それらを連結する交通物流システムの重要性が指摘されている。そして、これらの問題点は、第 3 次鎌倉市総合計画第 4 期基本計画、鎌倉市本庁舎整備基本計画などについても同様である。</p> <p>（1）計画の進め方 計画の進め方で重要なことは、まず現状分析を行い、問題とその要因を分析するである。ところが、そのステップが抜けているか、不十分なため目標に必然性が乏しい。</p> <p>（2）参加型開発 地域開発であるから、地域の人々の必要性と知恵を借りなければならないが、形ばかりの参加に終わり、真の地域計画になっていない。</p> <p>（3）コミュニティのネットワーク 現在本庁の下に腰越、深沢、大船、玉縄、の支所があり、市民が直接市役所職員に接触できるが、将来は腰越と玉縄については廃止するという構想と聞いており、市民へのサービス低下が心配される。</p> <p>（4）交通インフラ 先述の村上・森本論文によれば重要な要素は、交通・物流システムである。ところが、鎌倉という町は、源頼朝の昔から、谷戸という地形上の制約があり、ネットワーク化が難しい。鎌倉の交通インフラはみじめなほど貧しい。交通弱者のためのネットワークを開発すべきである。</p> <p>（5）スマートシティ 同じ村上・森本論文によれば、スマートシティには次の 6 つの側面があるという。経済、モビリティ、環境、人、生活、ガバナンスである。筆者は、モビリティ、環境、人、生活、ガバナンスを重視したい。</p>	<p>鎌倉市スマートシティでは、複雑・多様化する市民ニーズや地域課題への対応、持続可能な地域社会の構築のために、「課題を見える化し、みんなで解決する」実証事業等を通じて、新たな共創の場（コミュニティ）を形成し、地域の個性やニーズを生かした高度なサービスを創出する基盤整備を推進します。</p> <p>いただきましたご意見につきましては、リーディングプロジェクトの形成、実現において参考といたします。今後、リーディングプロジェクトでは、「市民目線の暮らしやすさ」などをテーマに実証事業等を鎌倉市スマートシティで展開してまいります。</p>	1・5	B
32	<p>1. 新参入者が鎌倉の何に対し、理想を持って来たのかを明確にさせていただいた上で… 先住者とへだたりがあるとしたら、何が原因かを学校や保育園の保護者に手書きで返事もらい、市でまとめ、それについてアンケートを作るなり「広報かまくら」でお知らせ、郵便で返事もらっては？</p> <p>2. 元々鎌倉は帰国子女が他より多く、優しさ、人情、福祉などに心広く持っている人が多く、海外からの外国人にもほぼ問題なかったりと、私は考えます。</p> <p>3. 先住者に、新参入者を「かんちがい成金ママチャリ」言うとはほとんどの人にあーと納得する人が多いので、地下道を自転車車が走る、犬をリードなしとかで尿の仕末しない人のしき地への不法侵入、歩道ママチャリぼう走、でもその人に学びが</p>	<p>鎌倉市スマートシティの取組の目的は、誰もが生涯にわたって自分らしく安心して暮らすことができる共生社会の実現です。そのために、データやテクノロジーを上手に活用して、「課題を見える化し、みんなで解決する」実証事業等を通じて、「人や地域のつながり」「多様性の尊重」といった価値を創造する新たなコミュニティを形成することで、対立する概念の共生を可能とし、市民の QoL やまちの魅力向上を図ってまいります。</p>	1	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>ない事も多々あるので、説明してあげる必要性。</p> <p>4. 新参者がコミュニケーションきちんとすれば自治会は受け入れるし、各々の自治会がガンバってる</p> <p>5. 以前、教育長宛てに出した保護者へのアンケートが出てきたら幸いです。←市長さんのFBのDMでも添付してあります。</p> <p>①興に入れば興に従え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国に人は日本のマナー、ルールに従うのが普通と理解されているはず。 ・日本の人も鎌倉のルール、マナーを知った上で努力して近づく必要は絶対あるはず。 <p>②鎌倉に理想を求め引っ越してきた方は、その理想に自分が入ったのだから、先住者の生きざまを真似することで自分は鎌倉住民とほこりを持てるのではないか？</p> <p>③新参者も先住者も学ぶことは同じはずです。</p> <p>あいさつし、規りつを守る。小学校の道徳と同じと思います。</p> <p>④今の日本の「自分さえ良ければ」の価値を変えて、人情を少しだけでも出していけば塀はこわしていけるのかな？</p> <p>⑤鎌倉への新参者が先住者となじめない理由で再度転出もよく聞くので・・・</p> <p>長くなってすみません</p>			
33	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーシティ説明会とスマートシティ市民対話2回に参加しました。 ・参加した動機は、国が進めるデジタル化に不安を持っていたからです。スーパーシティ法案が国会を通過したときは、まさか鎌倉市がその国家戦略特区に手を上げるとは思っていませんでした。 ・マイナンバーカードが政府の思うように進まず、ポイントでつって(税金を使って)進めている現状をどのように受け止めていらっしゃるのか？かつて、結局は金目でしょう、と発言した議員がいたように(その方は落選しましたが)、与党らしいやり方です。国民の政府に対する警戒心、信頼の無さをあらわしていると思います。その一方で、そうまでして進めたい意思が国にあることがわかり、一層警戒心が増します。 ・国に歩調を合わせ、デジタル化に熱心な鎌倉市ですが、市民対話に参加して、不安が払拭されることはありませんでした。 ・まず、市民対話の持ち方に驚きました。 <p>1回目はニューコロンプスの仕切りで、市が何を考え、何をしようとしているのか見えませんでした。</p> <p>2回目は職員の仕切りでしたが、説明のたびに拍手～！を求められ、そのお気楽さは衝撃でした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化によるメリットが見えませんでした。 <p>リーディングプロジェクトは防災減災とのことですが、市民対話の際の質問の答えにがっかりしました。「緊急時避難のために民生委員と自治会役員が高齢者世帯を訪問をした。市は共助を期待しているのかと思ったが、デジタル化すると解決できることはありますか？」に対し、答えは「緊急時は情報が大事」でした。AIスピーカーを貸し出す程度のことしか考えていない、やはり共助に期待しているのだと察しました。デジタル化で実際に解決できることは、あまりないのではないかという印象でした。</p> <p>また、AIスピーカーを利用する側は、日常生活が行政や当該外企業に筒抜けになります。どちらを取るかは利用する本人次第ですが、結局は共助に頼るのであれば、日常生活を晒すことは躊躇われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透明性にも疑問を持ちました。 <p>加古川市の児童の登下校の見守りについて照会がありましたが、市長が何回も説明会を開き導入できた、登下校の安全が確保できたとの説明でした。後日中身を調べてみると、説明がフェアだったのか？疑問に思いました。見守りのために監視カメラが難題も市内に設置され、カメラの前を児童が通ると保護者に連絡されるというシステムで、登録者は少ないようです。そこまで説明して欲しかったというか、何故丁寧な説明がなかったのでしょうか？</p> <p>同様に、スーパーシティの再申請では、ロードプライシングで市の中心部への車の乗り入れを少なくし、交通渋滞を緩和す</p>	<p>いただいたご意見については真摯に受け止め、令和4年度以降の取組の参考といたします。</p> <p>鎌倉市スマートシティでは、複雑・多様化する市民ニーズや地域課題への対応、持続可能な地域社会の構築のためには「課題を見える化し、みんなで解決する」実証事業等を通じて、新たな共創の場（コミュニティ）を形成し、地域の個性やニーズを生かし市民のQoLやまちの魅力向上につながる多様なサービスを創出する基盤整備を推進します。</p> <p>具体的には、「多くの市民が参加できる合意形成のプラットフォーム」を、オンラインとオフラインを組み合わせ、誰もがオープンに参加できる仕組みとして構築し、「市民起点の実現と新たなコミュニティの形成」を進めてまいります。</p> <p>また、リーディングプロジェクトでは、「市民目線の暮らしやすさ」などをテーマに実証事業等を鎌倉市スマートシティで展開していく予定です。これらの取組の具体化においては、構想素案「3 基本理念・基本原則」及び「4 推進体制」に記載の通り、リスクや倫理的課題の明確化を行いながら、十分な市民理解の醸成に努めます。</p>	1・3・4	B

No	意見要旨 ※原文の趣旨を損なわない範囲で、一部表現を変更している箇所があります。	市の考え方	種類	反映
	<p>ることをメインにしているようですが、やはり監視カメラが何台も設置されることが予想されます。行政が何台もの監視カメラを設置することは、市民にとって気持ちのいいものではないと思います。ホームページを見ても内容についての説明がほとんどありません。</p> <p>・基本原則に市民起点とか、透明性とか、それらしい言葉が並んでいますが、そういうお題目を並べるより、実施と一緒に考えていく姿勢を見せていただきたいと思います。</p>			